



総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。
スポーツ振興くじについてはこちらから
[日本スポーツ振興センターHP] <http://www.jpnsport.go.jp/>



スポーツ振興くじ助成事業

特集 女性が活躍しているクラブ

▶▶▶ カマタマーレスポーツクラブ(香川県)

特別企画 スポーツ団体ガバナンスコードに基づいた 取り組みを行っているクラブ

▶▶▶ ウルトラスポーツクラブ(島根県)

特別企画 地域の特性を生かしたプログラムを実施するクラブ

▶▶▶ アイランズスポーツクラブ(長崎県)

特別企画 オリンピック事前合宿を通してクラブが得た価値

▶▶▶ まほろばクラブ南国(高知県)

助成金情報 ▶▶▶ 詳細

お知らせ ▶▶▶ 詳細

バックナンバー ▶▶▶ 詳細



公益財団法人

日本スポーツ協会

特集

女性が活躍しているクラブ

NPO法人カマタマーレスポーツクラブ ＜香川県高松市＞

総合型クラブの活動基盤・活動環境をより充実させるためには、地域住民から必要不可欠な存在であると認識されることが重要であり、そのためには、地域づくりまでも視野に入れ、スポーツの「楽しさや喜び」を拡充し普及させる「公益的な活動」を行うことが求められます。

そこで今回は、多種多様な活動内容を確保するにあたって、女性の視点を取り入れ、クラブ運営を行っているクラブをご紹介します。

1 クラブ概要

女性の親子2人が運営の中心

NPO法人カマタマーレスポーツクラブは、香川県内で27番目に総合型クラブ認定された団体です。高松市木太校区に専用のクラブスタジオ（雑居ビル内・賃貸）を構えて活動しており、事務局長兼クラブマネジャーの女性（以下、事務局長）、事務局長の娘さんでサブマネジャーの親子2人が中心となって運営しています。会員数は約230名で、女性の比率が高くなっています。

約10種目の定期教室のほか、中学生を対象としたソフトテニス大会（年3回）、卓球大会（年2回）、クリスマス会、地元商店街での活動発表会などを開催しており、毎年春には無料体験会も実施しています。

2 プロサッカーチーム創設を目的にNPO法人設立

サッカー部門が独立し、行政からの委託事業で活動

NPO法人カマタマーレスポーツクラブは、香川県にプロサッカーチームをつくるために平成18年9月に設立されたNPO団体です。やがて、サッカー部門が（株）カマタマーレ讃岐として独立し、残ったNPO団体は行政等から事業委託を受けて活動していました。



子育て中のサブマネに代わり母親がクラブ運営

設立から5年ほど経った頃、組織発展のため、当時の事務職員が香川県スポーツ協会に「公認マネジメント資格を持つ人材がいれば紹介してほしい」と相談したところ、県内で数少ないJSPO公認クラブマネジャーの資格を有するサブマネジャーに白羽の矢が立ちました。

そして、当時子育てで多忙だったサブマネジャーの代わりに、母親である事務局長が運営に携わることになりました。事務局長は、平成24年3月に会社を定年退職後、4月よりクラブ専従で活動しています。平成25年度からは、サブマネジャーも加わり、現在の親子2人体制でクラブを運営しています。

3 各教室で女性指導者が活躍 事務局長は「母の目で」

●ソフトテニス教室

事務局長は、平成5年の東四国国体でソフトテニスの普及活動に取り組むなど50年以上にわたり、ボランティアのソフトテニス指導者として活動してきました。そんな事務局長が指導する「ソフトテニス教室」はクラブの看板種目の1つです。

指導上の留意点について事務局長は「指導の上で大切にしているのは、まず挨拶ができる子どもを育てることです」と、母のような目で語ります。誰もが気楽に参加・交流することでスポーツの輪が広がり、大人から子どもへスポーツを楽しむ心が受け継がれていくことを願っています。



ソフトテニス教室
クラブの看板種目です！

●定期教室について

「チャレンジ体操教室」「チャレンジ卓球教室」「はじめての新体操教室」「はじめてのキッズバレエ教室」「チアダンス教室」「ママと一緒に！リトミック体操教室」など、未就学児～中学生に人気の種目を実施しています。

チアダンス教室は、先述の地元商店街での活動発表会では毎回ダンスを披露しています。

チャレンジ体操教室とリトミック体操教室は、同じ女性指導者が指導にあたっています。



親子でリトミック体操教室
クラブスタジオで実施しています



令和3年7月22日
夏のスペシャルイベント
チアダンスの発表

各教室を開設した経緯

平成24年度に高松大学とクラブ間でパートナーシップを結び、クラブの事務所を大学の生涯学習センターに置かせていただきながら、大人を対象としたソフトテニス教室を開催しました。

そして、クラブ会員第一号の元教員で元クラブ理事の女性からの紹介で「チャレンジ体操教室」がスタート。初回のチャレンジ体操教室で、女性指導者と参加者の幼児2人が跳び箱の上で休憩している姿を見た事務局長はその姿が忘れられず、指導に関わっていた女性指導者を中心に、新たに「ママと一緒に！リトミック教室」「はじめてのキッズバレエ教室」と新規教室を始めました。

さらに、「ダンスの指導をしたいから」と会社を退職した女性指導者がいるとの情報を得て、クラブでチアダンス教室を始めることになりました。しかし、定期的に活動場所を確保することが難しく、苦慮していたところ、当時実施していたゴルフ教室の施設オーナーから紹介をいただき、雑居ビルの2階にクラブスタジオを構えることができました。そうして、平成25年5月からチアダンス教室がスタートしました。

また、スタジオを中心として、活躍の場を求めている指導者のために、新規教室の開設にも力を入れています。

●認知症カフェについて

令和2年7月から、高松市地域包括支援センターの「認知症カフェ開設運営事業」を受けて、認知症カフェを開設しています。月1回、クラブスタジオで2時間、レクリエーションやストレッチ、口内ケア、卓球などを実施しています。運営協力者を含め15～16名ほどが集まり、認知症の方と家族がリラックスできる場として機能しています。

クラブではもともと、高松市から一般介護予防教室委託事業を受けていたのですが、事務局長は、市が定めるプログラムしか実施できず、参加者同士がコミュニケーションをとる時間がないことに疑問を抱いていました。そんな折、地元ケーブルテレビで認知症カフェのことを知り、令和2年度からは認知症カフェに取り組んでいます。



認知症カフェの様子

●事務局業務について

事務局長は、クラブのほぼ全ての教室に顔を出し、指導者や参加者と小まめなコミュニケーションを図っています。誰かに相談すれば誰かが手伝ってくれる、そんな『お互い様』の関係づくりが、日頃からできています。

また、3ヶ月に一度の参加費徴収も全て手作業で行っており、その際にもコミュニケーションを図っています。

4 小まめなコミュニケーションが女性に人気

事務局長、サブマネジャーは「自分たちのクラブは決して女性向けのクラブというわけではなく、たまたま集まってくれた指導者や参加者に女性が多いだけ」と口を揃えますが、先述のような、小まめなコミュニケーションが、女性会員を入りやすくしています。

クラブでは、市報や広報誌「リビングたかまつ」等への活動掲載もしていますが、現会員の6割が口コミで加入しています。

5 女性の視点保ち、地域に広く愛されるクラブを目指す

指導謝金は高額設定→指導者が無理なく継続

クラブは、県内クラブの中でも指導者謝金を高額に設定しており、そこには「指導者自身が無理なく活動を継続できるよう、しっかり謝金を払いたい」という思いが込められています。

無給ボランティアでの持ち出し活動では、いつか限界がきてしまう。そうならないために、指導者やスタッフにきちんと謝金を払い、活動を継続できるクラブを目指しています。

そのためには、地域住民に広く愛されるクラブでなければならず、広く会員になってもらわなければなりません。

スポーツ以外の文化・芸術等でも事業展開を

令和3年度、クラブの定款を変更し、スポーツ活動だけでなく文化・芸術・学術を追加しました。今後は、認知症カフェでウクレレなどを取り入れたり、イベントで科学原理をつかったコマ回しをしてもらう企画以外にも、音楽、科学、絵画など幅広く事業展開ができるようになります。

スポーツ分野にこだわらない、女性ならではの視点を持ったクラブとして、さらなる活躍を期待しています。

(香川県クラブアドバイザー 山家 春香)

クラブプロフィール

設立年月日 平成18年9月1日（同日法人登記）

所在地 香川県高松市

運営 会員数 230名（令和3年8月現在）、予算規模1,000万円（令和2年度）

特徴 香川県にプロサッカーチームをつくるために平成18年9月に設立されたNPO団体から、サッカー部門が独立。総合型クラブとして生まれ変わったNPO団体です。現在は、高松市木太校区に拠点を置いて活動しており、チアダンスや新体操、親子リトミックなど、未就学児～高校生の女子に人気の種目を多く実施しています。

連絡先 〒761-0194 香川県高松市春日町960

TEL 070-5512-7625

URL <https://www.kamatamare-npo.jp/>

E-Mail morishita@kamatamare-npo.jp

<10月13日修正>

特別企画

スポーツ団体ガバナンスコードに基づいた 取り組みを行っているクラブ

NPO法人ウルTRASポーツクラブ ＜鳥取県境港市＞

スポーツの価値を毀損(きそん)しかねない不祥事の発生を防ぎ、また、スポーツの価値を一層高めていくためにも、スポーツの普及・振興の担い手となっている総合型クラブは適正なガバナンスを確保することが今後、求められてきます。

そこで今回は、スポーツ団体ガバナンスコードに基づいた取り組みを行っているクラブを紹介
(※)

(※スポーツ団体ガバナンスコードの詳細については、[スポーツ庁ホームページ](#)をご覧ください)

1 クラブ概要

サッカークラブから総合型に発展し、2014年に法人格取得

1989年に創設したサッカークラブ「フットボールクラブアミーゴ」を核に、さらなるスポーツの普及・スポーツ人口拡大・地域貢献等を目指すため、多世代・多種目を取り入れるべく総合型クラブへ移行し、2008年「総合型地域スポーツクラブ ウルトラC&Sクラブ」を設立。サッカーの他に「トランポ・ロビックス」、「たいいく」の2種目を教室という形でスタートさせ、スキーやキャンプといった地元ならではの自然活動体験を取り入れ、子どもたちの心と身体の成長につながる活動を行ってきました。2014年に特定非営利活動(NPO)法人格を取得し、「NPO法人ウルTRASポーツクラブ」へ移行して現在に至っています。

子どものサッカー以外にシニア世代と幼児を対象とした教室も展開

地域の子どもたちを対象としたサッカー教室では競技レベルを上げることはもちろん、礼儀など人を育てるために毎年「教育(対話)」の勉強会を開催しています。また、子どもたちだけでなく、保護者・指導者にも勉強していただくアクティブラーニングをサッカーの指導に取り入れています。

トランポ・ロビックス教室は、シニア世代の方の体力の維持・向上を図り、たいいく教室では、幼児に体を動かすことの楽しさを知ってもらうため保育所への出張指導やイベントを開催して指導しています。



山陰で初めて導入された「PNFCTレーニング」・「トップアスリート教室」では、ケガをしにくい身体づくりや、サッカーに必要な身体の動かし方が格段に向上し、良い成績を収めることができます。

これらの教室以外にも、地元にある介護施設への訪問・除草作業、中海の一斉清掃、東日本大震災寄付も行っています。

クラブハウスと屋内練習場(スパシーヴァ)を設置して活動し、会員数は115名(令和3年6月現在)です。事務局は2名(クラブマネージャー1名、事務局1名)が常勤しています。



PNFCTレーニング



トップアスリート(土屋健二さん)のサッカー教室

2 NPO法人法の制度を遵守し、ガバナンスを確保

子どもガバナンスコードを遵守する目的

毎日のようにメディアでは「部活動での暴言暴力」、「オリンピック人権問題」や「情報開示問題」など、ガバナンスコード規定を遵守できていない状況が取り上げられています。

ガバナンスコード規定を守らなければ、クラブ会員・会員の家族・指導者・スポンサー・地域の方々、全てのステークホルダーからの信用を失うだけでなく、クラブのみならず、スポーツ全体の社会的評価に影響しかねません。これを自覚し、私たちウルトラスポーツクラブではオンラインセミナー等を活用し、クラブ役員がコーチング資格を取得し、子どもの指導に対する勉強会に取り組んでいます。

子どもの主体的活動に向けクラブ役員が勉強会

私がFCアミーゴに所属した頃は、指導者主体で子どもたちが言われたことを一生懸命やっている姿が楽しそうではありませんでした。そのことに違和感を覚え、他の指導者を巻き込んで協議を重ね、「子どもたちが意見を言えて、楽しく主体的に行動できる」指導方法に変えたいと考え、取り組みました。具体的には、教育の勉強会を毎月の指導者会議で行い、子どもたちへの関わり方を指導者が共通理解することにしました。以下の4項目を指導者が常に考えて子どもたちに関わるようにしています。

- 子どもたちの話を聞く(傾聴)
- 子どもたちの考えを認める(承認)
- その後こちらの考えも話し、そして子どもたちが決める。
- チャレンジすることが良いこと、失敗は悪いことではない。

その結果、まずは子どもたちの話を聞いて一緒に考えることで、子どもたちと同じ思いで指導にあたることができている。

会計処理面でも外部監査を導入

NPO法人法では、自主的な法人運営を尊重し、情報開示を通じた市民の選択、監視を前提とした制度になっています。業務執行状況を報告する場としてwebサービスを活用し、事業実施報告書・決算報告書・事業計画書・予算書・役員表・定款等、中長期計画について公表しています。

特定非営利活動法人に必要な資金や運営費に充てるために、特定非営利活動に支障がない限り、特定非営利活動に係る事業以外の事業(その他の事業)を行うことができますが、特定非営利活動に係る会計から区分しなければいけないため、明確な会計処理は法人運営のポイントであることから、公正かつ適切な会計処理をするため、外部監査(税理士)を導入しています。

さらにクラブ員(保護者も含む)との対話を大切に、ステークホルダーの意見を反映するため、講義形式だけでなく能動的に学ぶことができるようなグループワーク等のアクティブラーニングの手法を取り入れた勉強会を開催しています。これらにより、スポーツ基本法で示されている事業運営の透明性と、迅速で適切な課題解決に努めています。

クラブで実施している内容として、競技レベルの向上はもちろん、子どもたちの豊かな心を育てるために、指導者を中心に教育の勉強を外部から講師を招いて行い、毎月スタッフ会議で情報共有しています。

暴力行為根絶に向けた「教育講演会」を開催

指導者や親を対象に、暴力行為根絶に向けた「教育講演会」を毎年開催しています。子どもが委縮し指導者の言いなりになることを無くすことが目的です。

NPO法人活動としての「環境の保全を図る活動」として、スポーツ広場を使用する際は傷んだ芝生は使わないようにしているほか、市民が気持ちよく使えるよう大人も子どもも、年に数回芝刈りを行っています。

ロシア、ブラジル、韓国との国際交流も実施しています。ロシアには2回訪問し、ロシアからは1回日本に来てくれました。また、韓国も2回行き、韓国からは1回来てくれました。その後、ブラジルには4回も訪問しております。こうした場ではサッカーの交流だけでなく、いつもと違う環境やルールに従うこと、文化の違いを理解してもらうことを学ぶ良い機会となっています。

また、当クラブでは、周りの人が気持ちよく過ごすことができ、「細部までこだわる・気をつける」ことにつながるよう日頃から整理整頓に心がけています。



教育講演会で保護者のワークショップ



ブラジルでの交流大会

3 取り組みの効果・反響・課題等

【取り組みの効果】

- 「教育講演会」では、子ども・保護者・指導者の共通理解が生まれ、各々のストレス軽減や子どものパフォーマンスの向上につながっています。
- 「国際交流」では、トップレベルの技術を学ぶことはもちろん、文化やルールの違いを理解でき、ルールを守れるようになり、人間形成に役立っています。
- 「整理整頓」することで、会場がきれいに保たれ、サッカーの試合においても細部に気づくことができるようになりました。日々の努力により、全国大会に出場した際「フェアプレー賞」を受賞することができました。

【会員からの反響】(指導者と保護者が定期的に学ぶことで生まれた反響)

- 一人ひとりと向き合うことで、子どもたちが自分に自信を持って楽しく取り組んでくれるようになりました。
- 失敗を恐れずにチャレンジする子どもが増えてきました。

【事務局が抱える問題点】

- コンプライアンス等に関する研修会費用を考えると、回数を増やしたいが厳しい状況。

【計画している内容】

- コンプライアンス等に関する研修会や、コーチングに関する研修会の実施回数を増やしたい。

【事務局の所感】

ガバナンスコード原則3(コンプライアンス意識徹底)について、人権問題(LGBT・人種・部落など)やセクハラ・パワハラ(暴言暴力)、個人情報保護・SNS等を含むコンプライアンスの問題は、非常に幅広く、正しい知識を必要とするので、クラブ独自の取り組みを行うことが難しいと感じます。

このコンプライアンスの問題は、子どもたちは学校の授業で学習し、社会人は各企業で教育を受ける内容であり、クラブスタッフが教育を実施することは現実的ではないので、クラブ員みんなで見学できる教育DVD等を貸与してもらう形で実施できればと考えています。

また、以前実施した障がい者の方とのスポーツ交流や、高齢者との交流、外国の方との交流は、子どもたちの人権意識に大きく変化があったので、今後も実施していきたいと思っています。

4

地域貢献活動や国際交流を通じ自立した選手を育成

今後も「いつでも、どこでも、だれでも、楽しくスポーツや文化活動ができる環境を築くこと」を目指します。

子どもの自立した選手育成の一環として、サッカーの練習だけでなく、地域貢献活動や国際交流などを実施するとともに、大人(保護者・指導者)には、子どもの意欲や成長を左右する関わり方を学ぶ「教育講演会」を行いたいと思います。また、子どもの競技力向上とPNFCTレーニングによる運動療法を取り入れ、トップアスリートの育成にも取り組んでいきたいです。

境港市からトップアスリート輩出を

そして境港市からトップアスリートを輩出し、スポーツ大会開催時の宿泊施設を建設できたらと思います。

少子化や地域コミュニケーションが希薄になっていることなどから、家庭や学校教育だけでは伝えきれない部分を、スポーツや地域貢献できる活動への参加により「子どもたちの健全な成長を促す環境」を醸成したいと考えています。

学校部活動の受け皿に

夢の実現のため、「子どもの練習環境の向上(天然芝の維持管理・室内練習場の確保)」や、「クラブハウス新設等の環境整備」をしていきたいです。

また、学校部活動においても、受け皿となるための準備は整えているので、関係団体には総合型クラブへの理解をお願いしたいと思っております。

他のクラブにはない「オンリー1」のクラブを目指します。

(NPO法人ウルトラスポーツクラブ クラブマネジャー 金坂 博)

クラブプロフィール

設立年月日 平成20年6月28日(平成26年8月11日法人登記)

所在地 鳥取県境港市麦垣町297

運営 会員数115名(令和3年6月現在)、予算規模500万円(令和2年度)

特徴 定期教室では、全世代向けの「トランポ・ロビックス教室」、幼児向けの「たいいく教室」を実施しています。サッカーではキッズ、ジュニア、ジュニアユースの大会をクラブ主催で開催しています。子どもたちの自立を考えた育成、指導者・保護者の子どもに対する接し方の共通理解を深める研修会、中海の一斉清掃や介護施設への訪問・除草作業などの地域貢献、ロシアやブラジル遠征などの国際交流を取り入れた活動をしています。

連絡先 〒684-0052 境港市麦垣町297
TEL / FAX 0859-57-5170
URL <https://fcamigo-ultrasc.com/>
E-Mail ultra-cs@sea.chukai.ne.jp

特別企画

地域の特性を生かしたプログラムを実施するクラブ

一般社団法人アイランズスポーツクラブ 〈長崎県佐世保市〉

総合型クラブが地域に根差し、愛されるクラブとなり自立・自律するに至るためには、地域に定着・浸透することが必要となります。

そこで今回は、長崎県佐世保市にあるハウステンボスを生かしたプログラムを実施するクラブを紹介します。

1 クラブ概要

ハウステンボス周辺が活動拠点

アイランズスポーツクラブは、長崎県佐世保市のハウステンボス周辺に活動拠点を置き、地元長崎県におけるスポーツの更なる振興を目的とする総合型地域スポーツクラブです。ハウステンボスはオランダの街並みをモデルとしたテーマパークで、クラブハウスはハウステンボスワッセナー地区にあります。

地域に密着した活動を展開

幼児スポーツ、サッカー、ストリートサッカー、サップ(SUP&SUPヨガ)、陸上教室、グラウンドゴルフなど地域に密着した活動を通し、多くの方々にスポーツへの参加を促し、活性化を図ることを重点課題としています。会員数は約250人です。

私たちアイランズスポーツクラブは、青少年育成のために、次のような取り組みを行っています。

1. 多くの子どもたちに、スポーツと触れ合う場と機会を提供しています
2. 地域スポーツチームの活動支援を行っています
3. 普段スポーツと接する機会の少ない方々へ楽しむスポーツを普及します



2 ハウステンボスの特性を生かした取り組み

「ブルー・オーシャン」の発想を原点にクラブづくり

5年ほど前、ブルー・オーシャンという言葉に出会いました。よく調べているうちに、総合型地域スポーツクラブはある意味ここから始まったのではないかと考えるようになりました。

簡単に言うとブルー・オーシャンとは、「従来存在しなかった新しい領域に事業を展開していく戦略」「他社と競合することなく事業を展開することができる」ことを意味します。ブルー・オーシャン戦略の大きな特徴は、低コストと差別化を同時に実現する点です。

そこで私たちクラブは、今までとは全く違った発想で、次のようなクラブづくりをしていくことにしました。

1. クラブハウスの在り方は
2. その種目はその地域に適していて、競合相手はいないのか
3. 指導者の考え方は

この3つを主課題として、次のような展開を始めました。

1. クラブハウスの購入
2. SUP&SUPヨガ教室、ストリートサッカーの開設
3. スポーツを通じて非認知能力を育む幼児教育へのチャレンジ

サンディエゴでの光景と合致したのがハウステンボスワッセナー

20年ほど前でしょうか、米国はサンディエゴのスポーツクラブに行く機会がありました。日本では総合型地域スポーツクラブが産声を上げたころです。欧米では既にスポーツクラブが地域のコミュニケーションの場でした。スポーツをした後、急用がない限りクラブハウスに集まり、ビールやドリンクを飲みながらいろいろと雑談をしていました。私が参加したグループメンバーは、医師、大学教授、タクシードライバー、配管工の方々でした。日本では職場中心での飲食（飲み会）が多い中、皆さんが楽しくドリンク片手に会話をしていたことに大変驚きました。

サンディエゴで見たクラブハウスのイメージと私たちのイメージが一致した場所、そこはハウステンボスワッセナーでした。

「レッド」から「ブルー」へシフト 新たな教室を始動

私たちの住む地域ではいろいろなスポーツを実施している既存団体が混在します。ですが、ほとんどの団体が総合型地域スポーツクラブの存在を知りません。知ろうとしないと言っても過言ではないかもしれません。幾度となく総合型地域スポーツクラブの説明、参画を促しましたが、平行線をたどる状態でした。つまりレッド・オーシャン状態だったのです。そこで全く新しいスポーツ「SUP&SUPヨガ」と「ストリートサッカー」を取り入れました。ブルー・オーシャンへのシフトです。

【SUP&SUPヨガ教室】

さて、ハウステンボスワッセナーの運河で実施しているSUP&SUPヨガ教室について簡単に説明します。

ご存じでしょうが、SUPはサーフボードより大きめのボードに立ってパドルで漕ぎながら移動します。海や川などでもできるスポーツですが、クラブでは、あえて景色を楽しんでもらうために、クラブハウスからスタートし、隣接するハウステンボスの景色を楽しみながら約1時間で移動するコースを設定しています。さながらオランダの運河を旅している気分のように好評です。

【利点】

1. 競合相手がいない
2. 年齢、性別に関係なく誰もが楽しめる

【欠点】

1. トイレ、更衣室、シャワールームがない
2. 波の少ない場所を選ばなくてはいけない

この欠点を補うにはクラブハウスが近くにあると解決できることに気づきました。まさにハウステンボスワッセナーは最適な場所です。

【ストリートサッカー】

次に、ストリートサッカーについて説明します。

直径約5mの囲い(CAGE)の中で得点を競う競技です。試合時間は3分で、1人对1人で行います。極端なフィジカルコンタクトを禁止し、股抜き(PANNA)でノックアウトとなる特殊ルールで行われ、体の使い方や足技などのスキル、駆け引きが勝敗の鍵となる面白い競技です(日本ストリートサッカー協会HPより)。

この競技の起源は、まさにオランダの路地裏から始まりました。年齢や性別に関係なく、誰もが一緒に楽しめるスポーツです。

以前、商店街でイベントを行いました。行政や商店街の方々から、なかなか受け入れてもらえませんでした。「サッカーはボールを蹴るものだから狭い場所では危険」という固定観念から抜けきれません。そこで、私たちの地域にあるハウステンボスでのイベント開催を新たな目標にして、検討を進めています。

【子どもの運動教室】

最後に子どもの運動教室について説明します。

「非認知能力」という言葉をよく耳にしますが、アイランズスポーツクラブではスポーツを通じて「非認知能力」を育む指導へのチャレンジをしています。

「非認知能力」とは、コミュニケーション能力、課題解決能力、社会適応能力、やり抜く力などを総称する能力です。指導者はアトランタ、シドニー両五輪出場のオリンピックです。一つの種目にこだわらず、子どもたちに年間を通していろいろなスポーツを体験させ、自己肯定力、基礎運動能力、非認知能力の成長の手助けをしています。あえて答えは教えません。



SUP
クラブハウス裏運河で子どもと犬と一緒に



子どもの運動教室
答えを教えず、仲間で考え中



ストリートサッカー
商店街でイベント開催

3

各教室の活動、スポーツに親しむ契機に

SUP&SUPヨガ教室、ストリートサッカーおよび子どもの運動教室は、スポーツ離れをした人たちが新たにスポーツに関わろうとしている人たちの心をつかみました。SUP&SUPヨガ教室は、スポーツ実施率の低い30～40代の会員さんが中心です。ストリートサッカーは、子どもと大人と一緒に楽しめるスポーツです。場所も取らず、商店街などでもイベントを行い、徐々に人気が出ています。

スポーツを通じて非認知能力を育む幼児教育へのチャレンジにより、指導者の質の向上がみられます。

クラブハウスはコミュニケーションの場

クラブハウスには、コミュニケーションの場として多くの会員の方々や地域の人たちが集まります。SUPの後のBBQやストリートサッカーの会員さんのポットラックパーティー（料理を持ち寄って行うパーティ）に活用いただいています。

ハウステンボスワッセナー地区は別荘地です。常住者は約2割で、職業も会社経営者、医師、小学校教師や高校教師とさまざまです。全ての物件（家）の裏には運河があり、敷地も広く、生活音が聞こえない環境です。気軽にカヌーを楽しんだりしている住民の方もいらっしゃいます。SUPやカヌーを楽しんだ後、クラブ会員さんのみならず、みんなでBBQやポットラックパーティーで交流を深めています。まさにサンディエゴのクラブハウスの再現です。総合型地域スポーツクラブを違った観点から垣間見ることができます。

【会員の方の声】

- ここでスポーツができるなんて、なんて素晴らしいことだろう。
- 背景が素晴らしい。
- スポーツの後のこんな風な楽しみ方があるのですね。
- 日本にこんなところがあったなんて、夢の世界じゃないよね。

【事務局から】

「クラブ会員ではないご近所さんもポットラックパーティーに参加されます。会員さんとのスポーツやライフスタイルの話題で盛り上がります。総合型クラブの運営にも興味を示していただけると嬉しいです。」



クラブハウスでのポットラックパーティー

4

「時間がない」→「時間をつくって」に意識を変えるクラブに

【各教室の今後の目標】

- グラウンドゴルフとサッカーは、今まで通りの楽しむサークル活動やスクールで会員を増やしていこうと思います
- SUP&SUPヨガ教室は、現在7月から9月下旬のサマーシーズンのみで行っております。今後は年間を通して行えるよう工夫をしてみようと思います（例えばウエットスーツの用意、温水プールでの練習など）
- ストリートサッカーは、本県総合型地域スポーツクラブのネットワークを活用し、クラブの連携事業として各市町の商店街でのイベント展開を考えています

クラブのミッションは「幸せを増やす唯一の方法は、それを分け与えることだ」です。これからもクラブの魅力を積極的に発信することで、「時間がないからスポーツができない人たち」の意識を「時間をつくってスポーツをする人たち」に変えていくクラブとして成長したいと考えております。そして、新しい何かを見つけて、それに賛同する仲間とともにクラブライフを楽しみたいと思いません。

（一般社団法人アイランズスポーツクラブ 代表理事 田原 幹文）

クラブプロフィール

設立年月日	平成19年6月16日（平成28年12月5日法人登記）
所在地	長崎県佐世保市ハウステンボス町
運営	会員数253名（令和3年7月現在）、予算規模250万円（令和3年度）
特徴	地域社会において、協調的精神や、親しみやすさ、やりがいの他、様々な発展の機会があることで知られるスポーツクラブです。
連絡先	〒859-3243 長崎県佐世保市ハウステンボス町15-6 TEL 090-2096-9110 URL https://islandssportsclub.com/ E-mail islandsfc@yahoo.co.jp

特別企画

オリンピック事前合宿を通してクラブが得た価値

NPO法人まほろばクラブ南国 〈高知県南国市〉

今年にはオリンピックが57年ぶりに東京で開催されました。

コロナ禍での開催となり、感染対策の徹底が叫ばれる中、行政と連携して事前合宿の受け入れを行ったクラブがあります。

今回は、オリンピックの事前合宿を受け入れたクラブの取り組みと、それによってクラブがどのような価値を得たかを紹介します。

1 クラブ概要

三つの理念の下、自主事業53サークルを運営

平成23年1月に南国市のスポーツ関連団体を中心に、まほろばクラブ南国を立ち上げ、12月に活動の充実による社会的責任を果たすべく、特定非営利活動法人格を取得し、平成24年度4月より南国市スポーツ施設指定管理を受託しました。

まほろばクラブ南国の理念は、①笑顔あふれる生涯スポーツ(いつでもだれでも気軽に参加できるプログラムの提供。健康増進・体力維持のお手伝い。継続的なサークル活動)、②感性豊かな子どもの体力づくり(スポーツ好きになるプログラムの提供。運動能力の向上をめざす学校週5日制に対応したプログラムの提供)、③健康づくり、仲間づくり、まちづくり(クラブを通じて健康づくり・仲間づくり・まちづくりを推進。いこいの場としての活用。健康、仲間、まちをテーマとしたイベントの開催)です。

コロナ禍により会員が120人減少し現在の会員数は893人(7月末現在)です。自主事業53サークルを運営している他、高齢者健康増進事業・生活習慣病予防事業・文化講座の受託事業等の委託事業、異業種を結ぶ高知県地域スポーツハブの補助金事業等を活用し、地域住民の福祉の向上を図り地域のプラットフォームの構築に励んでおります。

2 シンガポールのバドミントン選手が事前合宿

高知県が、2017年からシンガポールのスポーツスクールと交換交流があり、私たちが管理している南国市立スポーツセンターでも、バドミントン競技のスクール生と高知県の生徒たちがバドミントン競技を通じて交流を図り、5年間の交流を積み重ねてまいりました。また、シンガポール訪問時に両国とも少子高齢化が課題という背景があることを知り、この交流によって地域スポーツの在り方、総合型地域スポーツクラブを施設管理者が行っていることにも興味を持っていただきました。

高知県とシンガポールとの交換交流が契機

平成14年度高知国体バドミントン会場であった南国市立スポーツセンターが総合型地域スポーツクラブの運営・経営の拠点となり、わがクラブが同センターの指定管理者でもあることから、シンガポール・スポーツスクールの交流会場にもなりました。そして、クラブが高知県の地域スポーツハブ事業の拠点クラブとなっていたことにより、県職員・市町村職員との連携が図れていたこともあり、東京オリンピックのシンガポールバドミントン選手の事前合宿を受け入れることになりました。



シンガポールスポーツスクール生と地域交流
(ぐるぐるバットでスイカ割り)



高知県内のジュニア選手との交流
(シンガポールコーチによる教室)

総勢13人が南国市立スポーツセンターで10日間合宿

事前合宿は7月11日～7月20日まで南国市立スポーツセンターで実施され、選手2人、コーチ3人のほかチームスタッフ8人の総勢13人が参加しました。

合宿受け入れに向けて、日頃から施設利用者、クラブ会員の皆様に、合宿受け入れに向けての説明や理解協力をしてまいりました。前回のオリンピック東京大会時の高知県内聖火リレーの動画をロビーで流したり、過去のオリンピックブレザーを展示したりしました。

★事前合宿受け入れに際しての工夫や苦勞★

- コロナ感染防止対策として、職員の行動制限
- 日々の使用施設全体の利用者に対しての健康チェック表の提出と意識強化
- スケジュールが、前月まで確定しなかったため、施設利用者の調整や、クラブサークルの調整に苦勞
- 合宿使用施設で開催しているサークルの会場振り替えができない場合は活動を休止

コロナ禍の制約の中、クラブと市が「おもてなし」

私たちクラブも、コロナ禍により地域の方々を招いての交流を図ることはできませんでしたが、ホストタウンである南国市と共に、練習会場のコンディションを整える等の「おもてなし」をさせていただきました。

クラブで歓迎の横断幕をクラブキャラクター付きで作成したり、選手団歓迎のシンガポール国旗の小旗を飾ったり、若手クラブスタッフも一緒になって取り組みました。

バドミントンという競技の特性もあり、受け入れ期間中の会場温度の調整が重要となります。その日その日の天候に合わせて、練習前と練習中の空調機のコントロールや、入館・退館時の警備を含めたサポートも重要となります。午前、午後の練習終了後には6コートマット全てを掃除機で清掃いたしました。コートマット周囲のモップ清掃にも配慮し、安全に安心してトレーニングできる環境をつくりました。

また、スムーズなコミュニケーションのため、ポケットトーク(翻訳機)を携帯いたしましたが、それは何かと不思議がられたことは意外でした。

★事前合宿で生まれた効果や成果★

- 事前合宿期間中に拠点施設が使用できず、サークル活動を休止したが、休止について会員の皆さんからは理解と協力をいただいた
- 放課後部活動支援のバドミントンサークルから、歓迎の言葉などを添えたパネルの協力があつた
- スパーリングパートナーを受けていただいていた日本ユニシスさんとの関係が生まれた
- 日頃の管理施設の維持管理のクオリティーの評価が高かつた
- 新規コートマットが2コート増えた
- おもてなしも含め、レガシーとして「スポーツ×健康＝地域づくり」の交流が図れた
- コロナ終息後、「スポーツ×健康＝地域づくり」でシンガポールを訪問するプランを話し合えた

ただ、コロナ禍により、クラブを通じた地域交流ができなかったことは、非常に残念な思いでした。

3

スポーツの価値と効果 事前合宿受け入れで再認識

オリンピック出場選手を間近に迎えることで、スポーツを「する、みる、ささえる」ことの大切さを実感し、競技経験がないスタッフも、目的に向かって最善を尽くすことの大切さを共有できたのではないかと感じます。

人と人が結ばれる過程には、何事も勝敗以外に、過程が大切であり、過程を体験する機会を設けなければ、結ばれることはないと思います。改めてスポーツの価値を得た達成感は、素晴らしい成果と効果だと感じます。

社会教育と社会貢献につながる取り組み

このような取り組みが社会教育にもつながり、貢献であり、利己的な活動から利他的な考えにつながり結ばれるのかを、オリンピック・パラリンピックを通じて、伝えていけるかが課題なのかと感じます。

コロナ禍の自粛もあり、3週間ほど施設を利用するみなさんとは会えませんでした。通常業務に戻った際に、「お疲れさんやったね！ご苦労様」、「ようやった、ようやった」などの言葉をいただきました。利用者の方々も一緒に理解・協力し合った今回の経験を振り返ると、日頃から体を動かし、スポーツが健康につながる環境が日常化してきたのかなとも感じました。



シンガポール選手団より、従事した施設にクラブスタッフを通してお土産とサインとユニホームの交換をいたしました



日本語が嬉しい色紙となりました

4

クラブとしてシンガポールへの派遣を検討

コロナ禍の中、はっきりとした計画には至っていませんが、「スポーツ×健康＝地域づくりまちづくり」として、すでに国策的に動かれているシンガポールに、クラブで募り派遣したいと思えます。そして何よりも、そのような環境づくりを共有し交流が図れることを事前合宿のレガシーとして結ばれる取り組みを計画しております。

★事前合宿のレガシーとしての今後の取り組み★

- 高知県が誘致前に視察したシンガポールの会場を、地域住民目線で観て触れてみる
- 行政補助、予算がなくなっても次世代の子どもたちとの交流が図れる仕組みを見つけたい

総合型クラブを核としたプラットフォームづくりに挑戦

クラブと自治体が連携して、会員の医療費の分析・幸福度調査などを行い、そのエビデンスから、総合型地域スポーツクラブの多世代・多種目・多志向による「スポーツをする・みる・ささえる」などのサークル活動が、医療費抑制や健康寿命を延ばすために効果的であることをクラブで共有できるよう「見える化」(データ化)する必要があると考えます。このような「スポーツの価値」を具現化するとともに、その必要性の理解促進に向けて、総合型地域スポーツクラブを核としてプラットフォームづくりをすることが重要と考えます。

これまで高知県が交流を重ねてきたシンガポール・スポーツスクールとの交流が途絶えることなく継続されることを祈り、エビデンスに基づいた「スポーツの価値」の具現化に向けて、総合型地域スポーツクラブを核としたプラットフォームづくりに挑戦したいと思います。

(NPO法人まほろばクラブ南国 理事長 武市 光徳)

クラブプロフィール

設立年月日 平成23年1月27日(平成23年12月9日法人登記)

所在地 高知県南国市前浜1344-3

運営 会員数893名(令和3年7月現在)、予算規模:7,000万円(令和2年度)

特徴 社会教育と生涯学習を組み合わせたプログラムが特徴で、福祉の増進を目的に多世代・多世代・多志向で住民参加型のまちづくりを進めております。市スポーツ協会、スポーツ推進委員連絡協議会が設立準備から関わり、横のつながりを絶やさず、「みんな〜」をキャッチフレーズに笑顔あふれるクラブが特徴です。

連絡先 〒783-0094 高知県南国市前浜1344-3

TEL 088-865-8015 FAX 088-865-8016

URL mahoroba-nankoku.com/

<10月13日修正>



助成金情報

YMFSスポーツチャレンジ助成 2022年度(第16期生)

【実施団体】 (公財)ヤマハ発動機スポーツ振興財団

スポーツとその周辺分野において、将来、世界を舞台に活躍できる人材の育成をめざし、高い志・目標を掲げチャレンジするアスリートや指導者、研究者の活動を支援・助成します。

【申込期間】 2021年10月29日(金) 日本時間の正午にて入力締切

申請フォームにて、「電子申請」を行います。

<https://www.ymfs.jp/project/assist/>





お知らせ

日本スポーツ協会情報

ブロック別クラブネットワークアクション2021開催

総合型地域スポーツクラブ関係者が抱える課題解決の糸口を探るための情報の共有化や、クラブ育成支援のためのネットワークの強化を図ることなどを目的として全国9ブロックでクラブネットワークアクションを開催します。

＜日本スポーツ協会HP ブロック別クラブネットワークアクション＞

<https://www.japan-sports.or.jp/news/tabid92.html?itemid=4402>

※今後の新型コロナウイルス感染症の拡大状況に応じて、開催日程や開催形式等に変更が生じる場合がございます。

令和3年度生涯スポーツ功労者が決定しました！

国による生涯スポーツ功労者表彰は、地域または職域におけるスポーツの健全な普及および発展に貢献し、地域におけるスポーツ振興に顕著な成果をあげたスポーツ関係者を表彰するものです。今年度は生涯スポーツ功労者166名、生涯スポーツ優良団体123団体が決定され、日本スポーツ協会からは総合型地域スポーツクラブ育成指導者として9名を文部科学省へ推薦し、「生涯スポーツ功労者」として決定されました。

生涯スポーツ功労者一覧については下記URLを参照ください。

<https://www.japan-sports.or.jp/news/tabid92.html?itemid=4211>

ACP体験イベント(東京会場)参加者募集！

全国5会場での開催を予定しており、第1回目となる東京会場は、オンライン配信にて行います。特別ゲストとして、東京2020大会公式マスコットも出演予定です。

少人数、小スペースでも十分に楽しめる運動遊びをお届けしますので、この機会に是非、ご家族みなさまでご参加ください！

- | | |
|--|--|
| ●開催日程
10月10日(日)13:00～14:30 | ●開催形式
オンライン開催(JAPAN SPORT OLYMPIC SQUAREより配信) |
| ●参加費 無料 | ●申込締切
9月29日(水) |
| ●申込方法
申込フォームはこちら
https://entry.convention.co.jp/f-system3/view/view_form.php?form_id=6208&code=7eb49 | |

＜イベントに関するお問合せ先＞

スポーツ科学研究室 担当:青野、松田 spolab@japan-sports.or.jp

ワールドマスターズゲームズ情報

「ワールドマスターズゲームズ2021関西」大会参加者募集！

概ね30歳以上なら誰でも参加できる世界最大級のスポーツ祭「ワールドマスターズゲームズ2021関西」が、2022年5月に日本初開催となります。

競技参加はもちろん、参加者同士の交流や地域の観光も楽しめます。

また、大会ボランティアも募集しています。

関西でスポーツを一緒に楽しみませんか？

- 開催期間
2022年5月13日(金)～5月29日(日)
- 競技種目
公式競技 35競技59種目
- 開催場所
関西各地域
- 大会公式ホームページ
<https://wmg2021.jp/>
- エントリー方法
大会エントリーはこちら
<https://wmg2021.jp/games/entry.html>

ボランティア申込はこちら
<https://wmg2021.jp/games/volunteer.html>
- エントリー締切
2022年2月28日(月)
(大会ボランティアは2021年12月31日(金))